

平成 27 年度 第 4 回 マザーレイクフォーラム運営委員会 議事録

日時	平成 28 年 (2016 年) 3 月 23 日 (水) 18:15~20:00	
場所	滋賀県庁北新館 5-A 会議室	
出席者 【幹事委員】	井手 慎司	滋賀県立大学環境科学部
	川端 隆弘	公益財団法人淡海環境保全財団
	沢井 進一	認定 NPO 法人びわこ豊穰の郷
	中野 隆弘	びわ湖エコアイデア倶楽部
	中村 満	湖南・甲賀環境協会/NPO びわ湖環境
	野田 晃弘	NPO 法人蒲生野考現倶楽部/琵琶湖・淀川流域圏連携交流会
	藤田 知丈	暮らシフト研究所
	松沢 松治	びわ湖の水と地域の環境を守る会
	村上 悟	NPO 法人碧いびわ湖
	山口 美知子	滋賀地方自治研究センター
出席者 【一般委員】	池田 勝	こどもと自然の研究所
	石河 康久	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課
	大山 明彦	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課
	岡田 英基	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖保全再生室
	川崎 竹志	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課
	三和 伸彦	滋賀県化学・環境行政職員同友会
	望月 孝幸	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課

※今回欠席：【幹事委員】小松直樹（滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課）、佐藤祐一（琵琶湖環境科学研究センター）、平山奈央子（滋賀県立大学環境科学部）、【一般委員】大菅博樹（滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖保全再生室）、小林泉（滋賀県理事員）、重森俊一（滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課）、佐々木和之（環境フォーラム湖東）、辻博子（一般社団法人滋賀グリーン購入ネットワーク）、堀彰男（滋賀県魚のゆりかご水田プロジェクト推進協議会）、森俊彦（滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課）

今回の決定事項（要約）

- ・ 今年の「びわコミ会議」は、2016 年 8 月 20 日（土）10:00~16:30 にコラボしがで開催することが決定した。午前の部の発表者、午後の部のテーブルリーダーの候補者が選出され、各運営委員が依頼作業を分担して行うこととなった（全体のとりまとめは井手委員が担当）。
- ・ 地域連携コーディネート事業の皮切りとして、2016 年 6 月 10 日（金）に、企業内の担い手育成や NPO 等とのマッチングを目的とした第 1 回セミナーを開催する（メインコーディネータは池田委員）。
- ・ 新規約に基づいて提出された平成 28 年度の事業計画・予算計画案について、原案どおり承認された。
- ・ マザーレイクフォーラム運営委員会、県流域治水政策室、県下水道課の連携で制作したラインスタンプが、3 月より頒布開始された。所管課から記事提供予定。
- ・ 昨年のびわコミ会議で出された「キーセンテンス」について、既存の「びわ湖との約束」にエッセンスを追記する形でまとめなおした。活用方法や将来的な整理の仕方は今後の課題とする。
- ・ 「近江さんすい」春号には中野委員の記事を掲載。次号の担当は村上委員の予定。

1. びわコミ WG からの報告

- ・12/15、2/22 にびわコミ WG を実施し、今年のびわコミ会議について協議した。

(日時・場所等)

- ・開催日時は8月20日(土) 10:00~16:30とする。当日のスタッフ集合は8:45。会場の使用可能時間は8:50~17:00。
- ・会場は、例年通り「コラボしが21」。
- ・前日準備は、会場の都合で例年よりも開始時刻が遅くなり、19日(金) 17:30~となる。

(午前の発表団体：5団体)

- ・候補1：「川」…ビワマス倶楽部(連絡担当：中野) ※川づくりフォーラム MLF 賞受賞
- ・候補2：「里」…ゆりかご水田(第一候補=栗見出在家、第二候補=須原、第三候補=針江)(連絡担当：望月)
- ・候補3：「山」…ジビエ(第一候補=ココイチ、第二候補=池田牧場)(連絡担当=藤田)
- ・候補4：「つながり」…琵琶湖環境研究推進機構(連絡担当=佐藤)
- ・候補5：「子」…エコクラブ(第一候補=田上こども環境クラブ、第二候補=びわっこ大使)(連絡担当=池田)

(午後のテーブルテーマ案と担当団体：15団体程度)

- ・候補1：「川」…ビワマス倶楽部(連絡担当=中野)
- ・候補2：「農(ゆりかご水田)」…栗見出在家(連絡担当=望月)
- ・候補3：「漁&猟(の6次産業)」…ココイチ(連絡担当=藤田)
- ・候補4：「淀川」…BYnet(連絡担当=野田)
- ・候補5：「子ども」…びわっこ倶楽部(連絡担当=井手)
- ・候補6：「健康」…スポーツ大(連絡担当=井手)
- ・候補7：「地域連携」…地域連携 WG(連絡担当=村上)
- ・候補8：「外来魚・外来生物」…中井さん, IVUSA, 豊穰の郷(連絡担当=望月)
- ・候補9：「人のつながり」…脇田・奥田先生(連絡担当=佐藤)
- ・候補10：「防災」…高島市, 流域治水(連絡担当=三和)
- ・候補11：「再生法」…琵琶湖保全再生課
- ・候補12：「指標」…琵琶湖センター(連絡担当=佐藤)
- ・候補13：「観光」…ビワイチ, マイクリング, モンベル(連絡担当=佐々木)
- ・候補14：「沖島」…おきしま倶楽部(連絡担当=松沢)
- ・候補15：「映画」…映画マザーレイク関係者(連絡担当=藤田)
- ・候補16：「衣・住」…工務店(連絡担当=村上)

※14と15はひとつのテーブルにするという案もあり。

※午前発表団体のうち、田上こども環境クラブメンバーは参加者として各テーブルに入ってもらおう。

(びわ湖なう)

- ・今年、琵琶湖再生法に基づく保全再生計画が主要トピックになる。例年の琵琶湖政策課からの報告に加え、琵琶湖保全再生室からも報告してもらおう方向で調整する。

(パネル展示)

- ・昨年のレイアウトは動線に問題があったので、それ以前のレイアウトに戻す。

(広報)

- ・昨年は広報のタイミングが遅かった。仮テーマが決まり次第、早めに第1次広報を行う。
(担当＝藤田)
- ・市町からの参加が少ない(見えづらい)。市町の各課への訴求策(参加意義を感じられるような内容や見せ方の改善、環境担当課以外への情報発信手段の確保等)を検討すべき。
- ・「琵琶湖保全再生計画」や「日本遺産」等の関係で県内各市町の担当者が集まる機会を利用して参加を呼びかけてはどうか。

(その他)

- ・「開催テーマ」は、午前の発表内容から、「食」およびその背景となる「営み」を主テーマとするような文言とする。具体的な表現については、メーリングリストで各委員より案を募る。
- ・今回は「食」が中心テーマとなることもあり、昼休みもしくは終了後にコルネット(コラボしが内のレストラン)等を利用するなどして、食の体験を絡められないか検討する。
- ・ナビゲーターは例年通り川本勇さんに依頼済み。
- ・三日月知事は別の公務のため当日来られず、西嶋副知事が参加予定。
- ・発表団体等の全体調整・とりまとめは井手が担当する。

2. 地域連携 WG からの報告

- ・12/1、1/25 に地域連携 WG を実施した。
- ・琵琶湖保全活動の若い担い手の持続可能な発掘・育成や、企業や NPO など多様な主体のマッチングによる新たなしくみづくりのためのコーディネート事業の皮切りとして、「滋賀の企業だからできる環境・社会貢献セミナー」(仮称)と題した第1回セミナーを、マザーレイクフォーラムと滋賀 GPN の「生物多様性と CSR 研究会」と連携して、6月10日(金)に湖南エリア(草津市市民交流プラザ)で開催する。
- ・セミナー全体のコーディネートは池田が行う。
- ・事業に必要な経費は、びわ100から MLF にいただいた寄付金を活用する。
- ・第1回セミナーの結果を踏まえて、企業と NPO のマッチング等をより具体的に深化させる第2回セミナーを H28 年度内に開催する予定。

3. 平成 28 年度事業計画・予算計画案について

- ・規約改定に伴い、新年度の事業計画及び予算計画を運営委員会に諮ることとなったため、事務局から平成 28 年度事業計画（案）、および収支予算（案）が起案され、承認された。
- ・例年通り、「びわコミ会議の開催」、「情報交流サイトおよびフェイスブックによる情報発信・情報交流の促進」については県費で行う。「地域連携コーディネータによるつながりの促進」事業については、「びわ 100」から MLF への寄付金を財源として活用する。
- ・計画書には項目として挙がっていないが、地域連携 WG の地域コーディネータ事業の見通しが立った段階で、「マザーレイクフォーラム」の紹介パンフレットも H28 年度に制作する。

4. ラインスタンプの頒布について

- ・マザーレイクフォーラム、流域治水政策室、下水道課の 3 者で連携してラインスタンプを制作し、2 月に LINE(株)へ登録申請。3 月 8 日に LINE(株)より頒布許可が降り、同 9 日から公開・販売開始。フェイスブック等で告知したところ、すでに売れ始めている。
- ・販売価格は 1 セット 120 円。その 35%にあたる 42 円が、クリエイター報酬としてマザーレイクフォーラムの基金口座に入る。この収入は、マザーレイクフォーラムの事業資金として琵琶湖保全活動に活用される。
- ・県の所管課より、本件についてマスコミに対し記事提供する予定。
- ・各運営委員からも、口コミで拡散に協力してほしい。

5. びわコミ会議キーセンテンスのまとめ方について

- ・第 4 回びわコミ会議後にまとめた「びわ湖との約束」の各条文のうち、「…」から前の部分を「項目名」、後の部分を「具体的な内容の表現」と捉えて分離し、第 5 回びわコミ会議で新たに提示されたキーセンテンスのエッセンスを後者に箇条書きで追加する形でまとめなおした。
- ・今年のびわコミ会議以降の「びわ湖との約束」のまとめ方や、その活用方法については、今後の課題とし、さらに協議する。

6. 「近江さんすい」の原稿について

- ・秋号（びわコミ会議報告記事…執筆担当：佐藤）、冬号（Web サイト紹介記事…執筆担当：藤田）に続き、春号にも記事掲載をした（近江の川づくリフォーラムで MLF 賞を受賞したビワマス倶楽部紹介記事…執筆担当：中野）。
- ・次号は村上が執筆担当し、地域連携 WG の取り組みや、6/10 に開催予定のセミナー関連の記事を掲載する予定。

— 以上 —